

各位

kawasaki-info



Vol.165 (2025年7月発行)

発行：学校法人川崎学園

川崎医科大学総合医療センター

患者診療支援センター 地域医療連携室

“最も新しい生活習慣病である”
骨粗鬆症は、今やわが国の国民病に！

川崎医科大学総合医療センター

産婦人科 太田 博明

骨粗鬆症は4,000年以上前のミイラにも認められ、人類の歴史と共に存在していましたが、骨の老化現象とされてきました。1941年、米国の内分泌学者AlbrightがJAMA誌に「閉経後骨粗鬆症」という病名で、エストロゲンの低下による骨疾患であると初めて提言しました。すなわち閉経女性は身長短縮、円背・亀背、腰背痛の3兆候があり、これらはエストロゲンの低下による脊椎の骨粗鬆症に伴う病的症状・所見であると明言しました。医学的にも立派な提言でしたが、WHOによる骨粗鬆症の認知は半世紀後の1994年に女性に多い病的疾患と初めて明言された、新しい疾患です。

人類は人生100年時代を早晚迎えるので、WHOでは高齢者の増加で健康寿命の延伸には非感染性疾患(NCDs≡生活習慣病)対策を課題としています。NCDsの発症を防止・遅延する新たな医療ミッション：先制医療に骨粗鬆症は認知されて30年余の新しい疾患にも関わらず、一早く取り上げられた重要疾患です。

日本人女性は人種的に世界一長命で、小柄でやせ傾向にあり、骨密度の若年成人平均(YAM)値は白人よりも腰椎は数%~10%低値、大腿骨も約20%低値で、最大骨量が低くなっています。そのため、前期高齢者となる65歳で腰椎と大腿骨骨密度値は既にYAMの75%と予備群となり、後期高齢者の平均的な75歳ではYAM70%で2人に1人が骨粗鬆症に罹患し、予備群まで含めると2,000万人と膨大な数で正に国民病です。

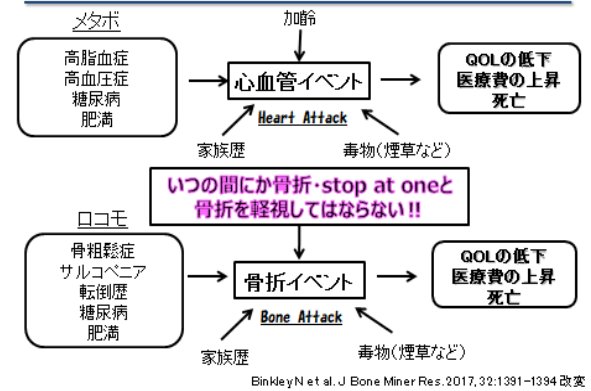
さらに重要なことは、人生晩年の特に女性における健康格差は「骨の健康格差」に大きく依存し、低骨密度であったり、骨折者や骨折リスクのある人は要支援・要介護となるため治療が必要となります(図1)。Binkleyらは椎体と大腿骨の骨折イベントは致命的疾患である心筋梗塞や脳梗塞の終末像とほぼ同等で、生じるQOLの低下や医療費の上昇、そしてその死亡率はほとんど同じであるといわれています(図2)。そのため骨粗鬆症は他の致命的重要疾患と同様に早期からの予防対策と先制的治療介入が不可欠な疾患です。そして、骨粗鬆症治療薬も女性ホルモンとビタミンDしかなかった30年前と違い、二重効果で効果満点の分子標的薬があり、治癒が可能です。

今や自分の足で、行きたいところまでいつでも歩いて行けるのです。このような健康寿命を得ることが可能となります。Happy people live longer(幸せな人は長生きする)を目指しましょう。因みに23年における岡山県の女性の生命寿命は日本一ですが、健康寿命は残念ながら19位です。骨密度検診率がワースト5位で、検診の普及が急務です。

図1 **これが女性の健康格差と健康寿命です！**



図2 **ロコモ・メタボの発症要因と終末像はほぼ同じ**



セミナーのご案内

別紙のとおり、急性期病院として地域住民に安心を提供できる医療連携の構築を目指し、病診連携・病病連携の充実を図ることを目的として下記を開催いたします。
奮ってご参加をお願いいたします。

『令和7年度 第3回 Kawasaki 連携フォーラム Webセミナー』

- 日時 : 令和7年8月6日(水) 19:00~20:00 (入室 18:30~)
- 方法 : オンライン (Zoom)
- テーマ : 「慢性副鼻腔炎診療の up to date」
- 講師 : 川崎医科大学総合医療センター
耳鼻咽喉・頭頸部外科副部長 檜垣 貴哉
- 対象 : 医師・医療従事者
- 参加費 : 無料 (岡山県医師会生涯教育単位 1.0 申請中)
- 申込方法 : 氏名・施設名・職種・医師登録番号(医師のみ)・住所・電話番号を記入の上、
地域医療連携室にメール (renkei@hp.kawasaki-m.ac.jp) にお申し込みください。

↑
ハイフン

病院理念

- 1.医療は患者のためにある
- 2.すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 3.24時間いつでも診療を行う
- 4.先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 5.地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

学校法人川崎学園 川崎医科大学総合医療センター
患者診療支援センター 地域医療連携室
〒700-8505 岡山市北区中山下二丁目6番1号
TEL 086-225-2133 (直通)
FAX 086-221-1101
E-mail shien@hp.kawasaki-m.ac.jp